



Kekkaku 結核

▼ 読みたい項目をクリックしてください

Vol. 100 No.2 March-April 2025

- 原 著 35……全身性ステロイド投与が抗結核薬による薬疹の出現時期に与える影響
■佐野由佳他
- 症例報告 41……肺 MALT リンパ腫再発と鑑別を要した肺 *Mycobacteroides abscessus* species 症の1例 ■山本友梨他
- 45……縦隔リンパ節結核治療終盤に心嚢水貯留を伴う薬剤逆説反応を呈し、ステロイド治療が奏効した1例 ■森内麻美他
- 活動報告 49……都内日本語教育機関における結核集団感染事例の報告と課題 ■水田渉子他
- 総 説 55……*Mycobacterium avium-intracellulare* complex の薬剤耐性メカニズム
■富岡治明他
- 会 告 2025年度 結核・抗酸菌症認定医・指導医／抗酸菌症エキスパート
資格申請・更新受付について

全身性ステロイド投与が抗結核薬による薬疹の出現時期に与える影響

¹佐野 由佳 ¹緒方 美里 ¹井上亜沙美 ¹尾下 豪人
¹吉岡 宏治 ¹池上 靖彦 ¹山岡 直樹 ²内藤 幸子

要旨：〔目的と方法〕ステロイド投与下で生じた抗結核薬による薬疹の特徴を明らかにするため、2011年1月から2023年12月までの間に、抗結核薬開始後に休薬を要する薬疹が出現した症例を後方視的に検討した。プレドニゾン換算10 mg/day以上を使用していた8例をステロイド群、ステロイドを使用していない18例を非投与群とした。〔結果〕治療開始から薬疹出現までの期間は、ステロイド群は中央値72日〔範囲13-150〕、非投与群は中央値16日〔6-81〕であり、ステロイド群は薬疹が出現するまでの期間が非投与群より有意に長かった ($p = 0.026$)。薬疹出現時の好酸球数は両群ともに高値を呈し有意差は見られなかった ($p = 0.868$)。〔結論〕ステロイドによって抗原提示から薬疹が惹起されるまでの過程が抑制され、薬疹出現までにより長期間要すると考えられた。ステロイド投与中の患者において、抗結核薬による薬疹はより遅発性に出現し、非典型的な経過をとりうることが示唆された。また、ステロイド投与下においても好酸球増多は薬疹を示唆する有用な所見であった。

キーワード：結核、抗結核薬、副作用、薬疹、副腎皮質ステロイド

肺 MALT リンパ腫再発と鑑別を要した肺 *Mycobacteroides abscessus* species 症の 1 例

山本 友梨 藤野 直也 佐野 寛仁 京極 自彦
突田 容子 東出 直樹 塩谷梨沙子 竹田 俊一
山田 充啓 杉浦 久敏

要旨：症例は66歳女性。X-19年に肺多発腫瘤を指摘され、胸腔鏡下肺生検にて肺 MALT リンパ腫と診断された。化学療法により完全寛解が得られたが、腫瘤であった部分は空洞化し残存した。その後、定期的な経過観察が行われていたが、X-1年より月単位で進行する湿性咳嗽が出現し、X年の胸部CT検査で残存する左肺空洞、嚢状気管支拡張内および周囲に複数の結節性病変を認めた。肺 MALT リンパ腫再発が考えられたが、喀痰培養で *Mycobacteroides abscessus* species が検出され加療目的に入院した。薬剤感受性検査で3日、14日ともマクロライド感受性であることが判明し、イミペネム、アミカシン、アジスロマイシン、クロファジミンによる多剤併用療法を開始した。初期治療開始1カ月後の喀痰培養は陰性化し、胸部CT検査では空洞内の多発結節性病変は縮小した。空洞内結節性病変の鑑別としてリンパ腫、真菌症、抗酸菌症等が挙げられたが、抗菌化学療法が奏効したことから、本症例の空洞内結節は肺 *M. abscessus* species 症による病変と考えられた。

キーワード：肺 *Mycobacteroides abscessus* species 症、肺 MALT リンパ腫、肺空洞病変

縦隔リンパ節結核治療終盤に心嚢水貯留を伴う薬剤逆説反応を呈し、ステロイド治療が奏効した1例

森内 麻美 萩原 恵里 関根 朗雅 金子 太一
田上 陽一 酒寄 雅史 奥田 良 馬場 智尚
小松 茂 小倉 高志

要旨：30歳女性。縦隔リンパ節結核に対する抗結核薬治療開始6カ月後に、縦隔リンパ節腫大の悪化と肺に浸潤影が出現した。その2カ月後に発熱・胸痛とともに心嚢水貯留の出現を認めた。治療経過や画像所見の特徴から、薬剤逆説反応と判断し、プレドニゾロン60 mg/日（1 mg/kg/日）の投与を開始した。肺浸潤影や心嚢水貯留は1週間で改善傾向を示した。その後、段階的にステロイドを減量し、抗結核薬治療を終了した。症状の再燃はなかった。薬剤逆説反応による心嚢水貯留の報告はきわめて少なく、特に治療終盤での発症例は報告がない。本症例は、縦隔リンパ節からの炎症波及による免疫反応として説明可能であり、ステロイド治療が著効した。薬剤逆説反応による心嚢水貯留にはステロイド治療が奏効する可能性がある。

キーワード：縦隔リンパ節結核、薬剤逆説反応、paradoxical reaction、初期悪化、結核性心膜炎、心嚢水貯留

都内日本語教育機関における結核集団感染事例の報告と課題

¹水田 渉子 ²森 亨

要旨：わが国における外国出生結核患者は、新登録結核患者における割合が増大しており、全国に比べ東京都では顕著である。外国出生者は、言語をはじめ社会・経済・心理等の様々な問題を抱えている。われわれが経験した日本語教育機関の結核集団発生事例を基にし、課題を整理した。事例は19歳の中国人学生を初発患者とし、学生・教員合わせた接触者243名、健診受検した231名中IGRA陽性62名（26.8%、発病者13名）、そのうち培養陽性例5名全員のVNTRパターンが、初発患者と一致した集団感染である。近隣諸国の結核蔓延度は日本の数倍～数十倍に達しており、これらの国からの留学生に対しては入国前健診が導入される予定であるが、加えて入学後の胸部X線撮影を含む定期健診が必要である。日本語教育機関の認定等に関して法的整備は進められているが、健康診断等、留学生の健康に留意する新たな議論はない。結核健診の確実な実施のために、法制化や公的財政支援が必要と考える。同時に有症状例に対する早期の受診勧奨も、同機関での生徒・職員間の相互啓発・見守りの一部として推し進める必要がある。

キーワード：結核集団感染, 日本語学校, 健康診断

Mycobacterium avium-intracellulare complex の 薬剤耐性メカニズム

¹富岡 治明 ²多田納 豊

要旨：非結核性抗酸菌，特に*Mycobacterium avium*（MAC）は概して病原性が弱く，AIDS患者や高齢者などの易感染性宿主，あるいは肺に基礎疾患を有する人などに好んで発症するが，MAC感染症は多くの場合，起炎菌の薬剤感受性が低いためその治療は困難なことが多い。本稿ではMAC症の化学療法の実状について紹介し，本症の難治性の一つの重要な原因となっているMACの薬剤耐性がどのようなメカニズムで成立しているのかに関して最近の知見を交えて概説する。

キーワード：*Mycobacterium avium*，*Mycobacterium intracellulare*，薬剤耐性，ポーリン，薬剤排出ポンプ，RNA polymerase 結合蛋白，リファンピシン